

スポーツ文化の風を発信する

学報NITTAIDAI

2007.Summer

15号

CONTENTS

新学長挨拶——1

アドミッションセンター、キャリア支援センター
設置について——3

INTERVIEW●アスリートたち——5

新採用教員の研究内容——7

Column●スペシャリストに学ぶ！
健康&スポーツ——9

ホームページ・リニューアルのおしらせ——11

NEWS●07年度上半期ニュース——12

クラブ情報●07年度上半期クラブの
主な大会成績——14

INFORMATION●dot.NITTAIDAI——15



沖口 誠(体育学科・4年)
撮影：横浜・健志台キャンパス
体操競技館



第10代 学長
おち あい たく し ろう
落合 卓四郎



伝統と実績を誇る体育・スポーツの日体大の 更なる個性化をめざします

社会情勢の急激な変化に伴い、大学教育は多様化する社会のニーズや価値観・期待感を的確に受けとめ、独自の伝統と実績との融合を図る柔軟性と個性化が求められています。百十有余年の伝統と実績を誇る日体大は、諸先輩が営々として築き上げてきたブランド力を二層向上させながら新しい「体育・スポーツの日体大」をめざすため、今まさに大学改革を進めています。

「11の大学改革構想を、教職員・学生・保護者・同窓生のオール日体大のエネルギーとして集結し、ロードマップにそって着実に遂行する」として職務に精励されておられた伊藤孝前学長から、私が大学改革のトーチを引き継ぐことになりました。

私は、学長として大学改革を遅滞なく、しかも着実に進め、体育・スポーツ界のリーダーとしてあり続ける個性豊かな、体育・スポーツの日体大を確立します。

そのための改革の3つの柱は以下のとおりです。

- (1) 豊かなキャンパスライフの提供：東京・世田谷キャンパスの再開発を完成させます。また、更に横浜・健志台キャンパスの整備、及び学生寮の改築などを検討します。
- (2) 学生の目線に立つたカリキュラムの提供：キャリアパスの発見と保障を前提として、現行カリキュラムの思い切った改善を図ることを手始めとして、柔軟かつ個性的な教育システムへ改善を進めます。
- (3) 11の大学改革構想の実現：11の大学改革構想を着実に進めます。

この大学改革の目指すところは、学生の目線に立つたわが国のトップを走り世界をリードする個性豊かな、体育・スポーツの日体大に向けての日体大モデルの創造です。このためには、我々の現在のブランド力を積み上げてきた伝統と実績を大切にしながら新しい時代の要請に応えるべく、これまでの取り組み

みの中で競争力のある部分を益々強くするように、建学の精神とミッションに沿って教育構造を整備していくことから始めたいと思います。基本の精神は「逞しい体と心を育てる」ことであり、そのためにふさわしい資質を持つ学生を全国から誘い、スポーツ技術・技能を獲得させ、指導・実践力の涵養を図り、「すべて実践を通して学び、考える力を身につける」新時代の日体大教育のシステムを実践していきます。

私は、それによつてのみキャリアパスへの発見と保障を提供できる柔軟かつ個性的な教育ができると信じています。

日体大のブランド力向上には、本学の歴史が築きあげてきたオリンピックを始めとする国内外に亘る数々のスポーツ大会での栄光を引き継ぐことが、本学の大きな役割であることは本学関係者には周知の事実であります。日体大モデルというべき新時代の日体大教育の構造には、教学・教育・研究・社会貢献と学友会活動及びスポーツ局との関係の再構築が重要であり、それなくしては本学の競技力の活性化はありえませんが、教学と学友会活動が両輪の輪であるという本学の強みが二層機能するよう、教育システムを見直すとともに、学友会活動を教学上でも保証するだけでなく、積極的に支援・活用します。

11の大学改革構想推進策としては、すでにキャリア支援センターとアドミッションセンターを本年度10月1日の開設予定で準備が進められております。キャリア支援センターは、本学で学び、学生生活を積み上げてきた学生にキャリアデザイン、キャリア教育指導など幅広く学生の卒業後のキャリア形成の支援をいたします。またアドミッションセンターは、新しくスタートしたAO入試、学生募集など、本学が求める人材を幅広く日体大に誘う業務を展開いたします。

本学は、更なる発展のために速やかに大学改革を実行してまいりますので、これからの大学改革へのご期待とご協力を皆様にお願ひ致します。

【プロフィール】

落合 卓四郎(おちあい・たくしろう) 島根県出身。1943(昭和18)年生まれ、64歳。
Ph.D(ノートルダム大学)

<主な経歴>

65年3月、東京大学理学部数学科卒業。67年3月、東京大学理学系研究科博士前期課程数学専攻修了。69年8月、米国インディアナ州ノートルダム大学大学院博士課程数学コース修了、Ph.D(ノートルダム大学)学位修得(数学)。67年4月、東京大学理学部助手。69年9月、米国カルフォルニア大学(バークレー)講師。71年9月、大阪大学理学部助教授。87年4月、東京大学理学部教授。91年4月、東京大学総長補佐。92年4月、東京大学大学院数理科学研究科研究科長。99年4月、東京大学附属図書館長・総合図書館長。04年6月、東京大学名誉教授。

04年4月から日本体育大学教授。05年4月、日本体育大学学長代行・副学長。05年6月、教育改革推進室長。06年4月、日本体育大学副学長・日本体育大学女子短期大学部副学長。07年6月、日本体育大学学長代行・日本体育大学女子短期大学部学長代行。07年7月23日、日本体育大学学長・日本体育大学女子短期大学部学長に就任。任期は2011年3月31日まで。



一歩前進します。

から2つのテーマが平成19年10月1日実現します。
置づけられ、センター所属教職員を中心に全教職員体制で活動していきます。

キャリア支援センター

日体大の学生に各界で活躍の場を拓くために

1 「キャリア支援センター」設置の主旨

本学で学び、学生生活を積み上げていく学生の職業意識の啓発と、就職支援の充実を図ることを主な目的とし、キャリア支援センターを設置します。本学の学生は、教員志望と部活動をしている学生が多いことが特徴の一つといえます。この特徴も見据えた中で、「キャリア教育」と「就職支援」の充実を更に図ります。キャリア支援センターを設置することにより、教職員による指導体制の充実を図り、社会のニーズに適應できる人材作りを卒業生をも視野に入れ全学を挙げて実現していきます。

2 キャリア支援センターの組織

センター長、キャリア教育支援担当教員、キャリア教育支援課職員で組織します。

3 活動内容

- (1) キャリア教育指導の企画、立案、実施に関する事
- (2) キャリアデザインに関する事
- (3) インターンシップ等の就職支援に関する事
- (4) 新たな就職先の開拓及び情報収集に関する事
- (5) キャリア支援スタッフの養成及び研修に関する事
- (6) 同窓会、保護者会、大学の連携強化によるサポートに関する事
- (7) 就職情報誌の発行による職業意識の啓発に関する事

4 学年別キャリア教育・キャリア支援

【1・2年次】

新入生オリエンテーション時よりキャリア教育講座を実施し、自分の生き方や将来の進路について考える機会を提供します。
キャリアデザイン講座を実施し、部活動学生・サークル学生も視野に入れ、勤労観・職業観に意識を持ち、「働く」ことの意義・目的など、自分の将来像を考え、その実現に向けた学生生活を送れるようサポートを行います。

【3年次】

教員、企業、公務員希望に対し就職支援講座を実施し、各業界における具体的な筆記試験対策、面接対策などキャリア支援講座にてサポートします。
個別面談・相談を実施し、各業界の模擬面接指導、就職活動における情報提供など、キャリア支援センター職員、及び、OBによるきめ細やかな指導を行います。

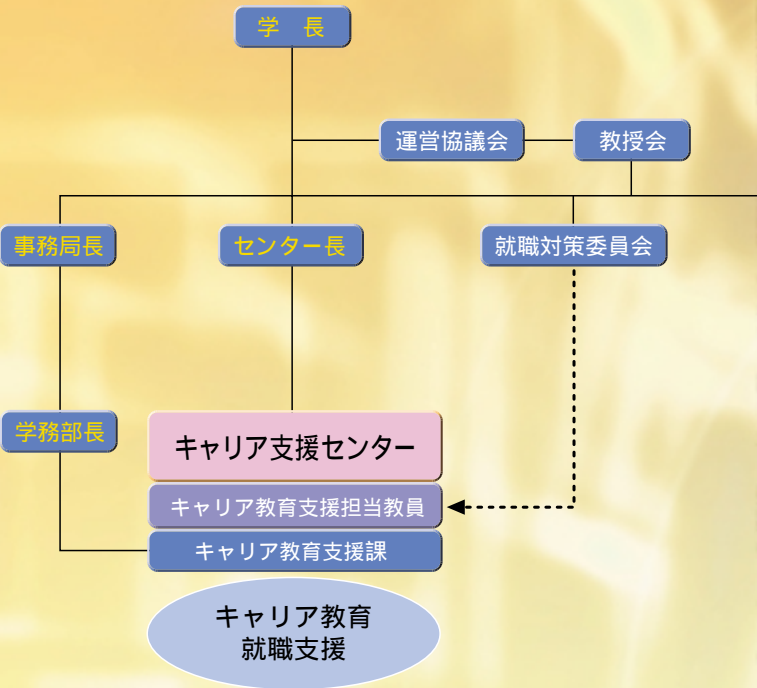
【4年次】

企業就職志望者には採用担当者による説明会を実施し、教員、公務員志望者には、官公庁の採用担当者を招き情報の提供を行います。
また、試験直前講座を実施し、教員、公務員志望者に対し現役合格をさせるべく、1次試験対策及び、2次試験対策をきめ細やかに試験直前まで徹底指導します。

組織図

■キャリア支援センター組織構成

学長の下にキャリア支援センターを位置づける
キャリア支援センターにセンター長を置く
キャリア教育支援担当教員を置く
(就職対策委員から若干名を学長が指名)
事務組織としてキャリア教育支援課を置く



改革に向け、また

新時代の日体大教育を創出する11の大学改革構想
アドミッションセンター、キャリア支援センターは、学長直下の附置機関として位

アドミッションセンター

有能な人材を日体大に誘うために

1 アドミッションセンター設置の主旨

大学全入時代の到来や、体育系学部・学科が新增設されている現状にあって、中・長期の展望の下で、有能な学生を確保する方策を講じるためにアドミッションセンターを設置します。

このセンターは、本学が想定する卒業後の進路、教育プログラムに適した学生をより多く誘うための学生募集活動、及びそのために必要な入試方法の改善と構築を中心的に実行していきます。

2 アドミッションセンターの組織

アドミッションセンターは、センター長、アドミッション担当教員、入試実施本部員、入試課職員で組織します。

入学試験に関する問い合わせ先：学務部 入試課

事務取扱時間：月曜～金曜 8:30～17:00

東京・世田谷キャンパスの再開発工事(新校舎建設)に伴い、9月1日より、入試課が横浜・健志台キャンパスに移ります。

8 / 31まで

東京・世田谷キャンパス
〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1
TEL:03-5706-0910(直通)
FAX:03-5706-0996(専用)

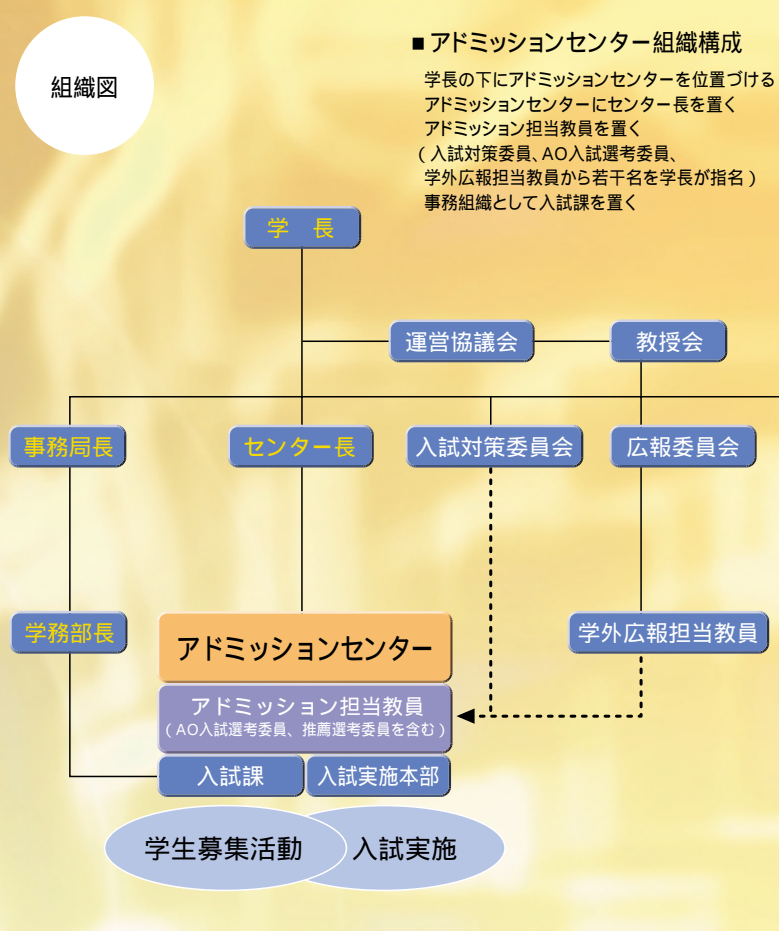
9 / 1から

横浜・健志台キャンパス
〒227-0033 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221-1
TEL:045-963-7955(直通)
FAX:045-963-7956(専用)

3、活動内容

- (1) 学生募集に係わる広報活動の企画、立案、実施
- (2) 市場調査等学生募集に係わる調査研究
- (3) 入学者選抜技術の研究及び開発
- (4) AO入試の準備及び実施
- (5) アドミッションスタッフの養成及び研修
- (6) その他学生募集、入学者選抜及び学生受入れに関すること

組織図



世界のトップに立つ!名門・日体大の系譜を金メダルで継ぐ



9月、ドイツのシュツットガルトで行われる体操世界選手権、日本は78年ストラスブル大会以来15大会ぶりの団体金メダルを目指す。その代表メンバー(7名)に選出されたのが沖口君である。来年の北京オリンピックも視野に入れる本学体操競技部のエースに、頂点を目指す意気込みを聞いた。

[体操競技部]

沖口 誠

(体育学科・4年)

—いよいよ世界選手権が間近に迫りましたが。

沖口 ● 様々な大会が続く中で、今年のもっとも大事な大会ですから、まずは他のメンバーの足を引っ張ることなく終わる事が出来ればいいと思っています。今回の日本チームの中では自分が一番若いのですが、あまり萎縮することなく競技に集中したいです。

—世界選手権の次には周囲からオリンピック出場の期待が高まりますが。

沖口 ● 自分でもオリンピックは夢の舞台ですし、是非出場したいです。来年の5月ぐらいまで選考会が続くので、今はひとつひとつの大会を高いレベルでクリアしていくことだけを考えています。その結果でオリンピック出場が果たせれば良いと思います。

—もちろんオリンピックでは...?

沖口 ● そうですね、メダルを狙ってみたいです。体操を始めたばかりの頃は、とても想像がつかないような状況ですが、今の自分にとっては、今後の努力次第ではそんな大きなことが出来るような気がしています。

—沖口さんが体操競技を始めたのはいつ頃だったのでしょうか。

沖口 ● 小学校3年生の時です。自宅の近くに体操クラブがあって、親の勧めもあり面白そうなので、入会しました。あの頃は遊びの延長でしたが、とにかく楽しく体操に触れることが出来たのが、その後も競技を続けていく理由になったと思います。競技として成績が上がってきたのは、高校に進学した頃だったのでしょうか。

—大学進学の際に日体大を選んだ理由は?

沖口 ● 高校時代の恩師からの勧めですね。また、高校時代の先輩も日体大の体操競技部にいましたし、施設面や環境面を考えても、自分の実力を伸ばすのに最適だと思いました。入学後に感じたのですが、OBを含め日本のトップクラスの選手たちの技術が間近に見られる環境はそうありませんから、日体大に進学しなければ今の僕はなかったのではないのでしょうか。

—試合の際に沖口君自身がもっとも大切にしていることは何でしょう。

沖口 ● 試合前になると、自分の技術に不安を覚えることが少なくありません。自信を持って競技会に臨んだときと、そうでないときの差がまだあるように思います。しっかり練習を積むことで、自分の心の中の不安を少しでもかき消せるようにしたいですね。得意種目である床や跳馬を中心にもっと点数が出せるよう、日々前進あるのみです。

—海外の選手と試合をする際に、特に感じることもあるそうですが。

沖口 ● やはり、筋力や体のバネの部分で日本人とは先天的に違うものを持っているような気がします。もちろん、日本人にしかない特性もあるので、試合などではそれを押し出せばいいのですが、世界のトップに立つために埋めなくてはならない部分があることは常に感じています。

—最後に今後、日体大を目指す後輩たちにメッセージをお願いします。

沖口 ● 日体大独特のカリキュラムや行事などは、部活の枠を離れて、とても楽しく、かつ自分を鍛えられる時間だと思います。また日体大は他大学に比べて精神面で自分を磨くことが出来る場所ではないのでしょうか。多くの後輩たちにも、この環境にチャレンジしてもらいたいですね。

(8月2日、横浜・健志台キャンパスにて)



【PROFILE】● おきぐち・まこと

1985年・大阪府生まれ。

身長/161cm 体重56kg

岡山県・私立関西高校出身。

主な戦績:05年全日本:ゆか1位、跳馬1位、06全日本:跳馬1位、同年環太平洋選手権:団体1位、07年NHK杯:個人7位、同年ウクライナ国際:団体4位、個人3位、ゆか1位、跳馬2位、同年上海国際:跳馬3位。海外遠征や国内の大会などに追われ、オフがなかなか取れない中でのリラックス方法は「寮の部屋でゴロっとすること」。好きな食べ物:刺身、海外遠征でもう一度行きたい場所はハワイ。

< 表紙を飾る >

北京での目標は金メダル。 極限の集中力で臨む

来年に迫った北京オリンピック。本学学生でもっとも早く出場が決まったのが早川浪さん。高校卒業後、一度は実業団に進むが、本学への留学を決意。その後日本国籍を取得し見事に代表チーム入り。高い技術と精神力を武器に北京では金メダルを目指す。五輪出場を決めた際の心境や、今後の課題などを聞いた。

[アーチェリー部]

早川 浪

(体育学科・3年)

—まずは北京オリンピック出場が決まった際の心境を聞かせてください。

早川 ●ドイツで行われた世界選手権では、大会前にコンディションを崩すなど本調子とは言いがたい状況でした。しかし、アーチェリー部の金コーチや部員の理解とスポーツ局の齋藤トレーナーを中心としたスタッフの方々の献身的なサポートもあり、全力で競技に臨むことができました。まさかとは思いましたが、出場が決まったときは嬉しくて飛び上がる気持ちでした。

—早川さんがアーチェリーを始めたきっかけは何だったのでしょうか。

早川 ●韓国ではアーチェリーが非常に盛んです。小学校5年生のときに、面白そうだからという理由で始めました。あの頃からオリンピックに出場することが目標になっていました。

—日本に留学するきっかけは。

早川 ●一度、韓国で実業団に入ったのですが、もっと専門的な知識を勉強したいと思い、日本への留学を決意しました。最初はホームシックになることもありましたが、周囲の方の手助けもあり、日本がとても好きになりました。帰化する決心も、日本にいるお母さんとずっと一緒に住みたいと思ったことが一番の要因です。今は妹と一緒に日体大で勉強しています。

—日本の生活に戸惑うことはなかったですか。

早川 ●やはり最初、日体大に入学した際に言葉の壁は感じました。部活でも、練習メニューが理解できずに苦しんだこともあります。生活習慣の違いなども戸惑いましたが、今振り返ると楽しい思い出も多いですね。自分が留学を決意したときの気持ちを忘れることなく、多少の壁は感じないように心掛けました。その結果、友人たちとコミュニケーションが徐々に図れたときはうれしかったです。

—大学生活はどんな感じでしょうか。

早川 ●今では授業もほとんど理解できるようになりました。黒田先生の『心理学』の授業などはアーチェリーでも参考になることが多いです。また部活の友人たちとテスト前に一緒に勉強したり、互いに料理を作ったりすることが、一番楽しい時間です。

—アーチェリーの魅力を教えてください。

早川 ●まず屋外で競技することが多いので、同じ条件下ということがほとんどありません。そうすると、技術はもちろんですが精神力が勝負になります。微妙な心の揺らぎが成績にも直結してしまうあたりが、アーチェリーの醍醐味ではないでしょうか。

—いよいよ1年後には北京です。

早川 ●そうですね。まだまだ自分には多くの課題があると思います。特に私はどんな大会でも緊張してしまう悪い癖があります。体力的、技術的な向上はもちろんなのですが、精神面でもっともっと強くならないとメダルには届かないと思っています。これらの課題を克服して、自信を持って北京へ行きたいですね。そして最高の結果を出したいです。

—日体大を目指す後輩たちにメッセージをお願いします。

早川 ●自分が頑張れば、その頑張った分だけ何か返ってくる場所ではないでしょうか。それと校風がとにかく明るい(笑)。だから多くの友人にも恵まれると思います。私も入学当初は不安もありました。でもとにかく頑張ることで道が拓けてきましたから。(7月25日、横浜・健志台キャンパスにて)



【PROFILE】●はやかわ・なみ●

1984年・韓国全州生まれ。

身長 / 166cm

全北体育学校出身。2006年1月、日本国籍を取得。

主な戦績:2007年世界室内選手権(トルコ)優勝。同年ワールドカップ(トルコ)で女子予選ラウンド144

射:30m、50m、60m、70mの距離を各36射:1440点満点)で1363点の日本記録を樹立、同年世界選手

権(ドイツ)では、女子リカーブ個人70m(36射:360点満点)で336点の日本記録も樹立。

オフになると妹の漣さん(日体大アーチェリー部1年)と渋谷や原宿に買い物に出かける。趣味は映画鑑

賞、「涙そうそう」には「感動した」。五輪後の目標は「おばさんになってもアーチェリーを続けていたい」。



子どもたちが意欲的に学習しているのがわかります。
私がメインに指導していることは、スポーツ教育学の分野で、スポーツ教育とはなにか？

私は4月から始めた講義で学生たちと頻りに各学校に出かけていますが、「私は日体大のOBです」とおっしゃる先生に何回も出会うています。実際に授業を見に行っているディスカッションする学生たちも喜んで参加しています。教科教育学は足で勉強する学問でもあります。本で学んだことを授業の現実に映してみることが必要です。これから教育現場に出て行くこととする学生諸君は、いい授業とはこういうものだ、としっかり見ることが重要です。「いい授業」とは、その先生の立てた目標が確実に実現されているものです。目標がよく実現され、子どもたちが高く評価している授業をよい授業だと仮定しますと、客観的に見て、勢いがある、雰囲気がある授業は間違いなく評価が高い。無駄な時間が少なく、運動学習場面にたくさんさんの時間が確保されている、しかもそこでの活動頻度が非常に高い、そうした授業は子どもたちが意欲的に学習しているのがわかります。

スポーツ教育が目指すべき方向は何か？何を教えるのか？発達段階に応じてどのような教材がふさわしいのか？というメソッド・方法で教えるのか？どうすれば効果が出るのか？というものです。
また、将来現場に配属されてからも常にフィードバックしていく必要があります。子どもたちに問いかけてみる、あるいは子どもにも評価させる、客観的に分析してみる。1年に1度は自分で授業研究をやってみる。そうしたことを累積していくことはじめての流の先生になれるのです。先生の指導力は、いくら頭で学んだて実践しなければ身に付かない。だから私は徹底的に実践力を習得すべきだと思っています。見る、実際にやってみる、そして自論と映してみても反省する。それを「リフレクティブ・ティーチング」と呼んでいます。「反省的授業」です。私が特に日体大で期待していることは、そういう教師たちのための実践的な大学院をつくるということです。そこでは、徹底的に実践、教えて、反省、教えて、反省、本当に高度な力量をもった実践家を育成する。これはまだ他の大学ではぜんぜん実現できていないことです。日体大において、まず初めにやるべきだと思っています。
日本の中学・高校の体育の先生の半分は日体大のOBです。その卒業生、あるいはこれから教育現場に入っていく人



大学4年の頃。高校時代は体操競技で国体やインターハイに出場。大学時代でもインターカレッジの選手。柔道も初段。

PROFILE ● たかはし けんじ

1943年生まれ。京都府出身。

- 教職教育 / 大学院スポーツ文化・社会科学系
- 東京教育大学大学院体育学研究科修士課程修了
- 博士(体育科学)
- 前筑波大学副学長

ちが変わることによって、日本の体育教育が変わります。教師は実技能力が高ければ高い方がいい。子どもにとって憧れの先生がいい授業をしてくれたら拍手喝采ですよ。また、学校の管理職の先生も体育出身者が多い。人間掌握力についてのかな「コミュニケーションスキルがいい。スポーツを通して自然に学んできた、組織力、マネージメント力が高い。私はそういう意味で日体大生に大きなエネルギーを感じるし、私も大いに頑張らねばいけない、と思っています。
このところ教員の採用の関口が狭くなっていることは事実なので、採用試験を受けない人も出ています。しかし、逃げるなどというつもりは、私は体育・スポーツ界の人間が生き残る最大のフィールドは教育界だと思っています。まずは、学校です。燃える日体大生といいたい。

体育学科

高橋 健夫 教授



高度な力量をもった教育の実践家を育成する。



20年以上かけて開発された、授業研究の基礎となる体育授業観察評価法を紹介した高橋教授の主な著書と代表的な翻訳書。

ツ選手のための食事トレーニング 第2弾!!!

表1: “基本の6皿 - ステップアップ編”

	メニュー例	コンビニで買えるメニュー	メ モ
主 食 (炭水化物補給)	炊き込みご飯 混ぜご飯 おにぎり カレーライス オムライス	おにぎり サンドイッチ 親子丼 お寿司 冷やしうどん 焼肉丼 冷やし中華	精白米ではなく、玄米にするとビタミン類を強化できます。同じようにコーンフレークより玄米シリアルにすると、ビタミン・ミネラル類を強化できます。また、白いご飯だけではなく、色々な食品を混ぜることで、白いご飯だけでは摂れなかった栄養素を一皿で摂ることが出来ます。ふりかけや漬物を利用するのも良いでしょう。コンビニでは丼物や冷やし中華のように、ご飯・麺・トッピングのあるメニューを選ぶと、ひと皿で主菜や副菜のお皿をまかなえます。
汁 物 (ビタミン・ミネラル補給)	お味噌汁 (具たくさん) 豚汁 けんちん汁 ミネストローネ クラムチャウダー キムチスープ	インスタントスープ (具たくさんもの)	汁物は具たくさんにしましょう。ひとつでも多くの食品を組み合わせると、ひと皿でより多くの栄養素を補給できます。生ではかき混ぜる野菜やキノコ類も、加熱すると食べやすくなります。水分に溶け出す栄養素もスープとして飲めるので効率よく摂取できます。夏は暑くて食欲が落ちてしまいますが、食べなくても夏バテになってしまい合宿シーズンを乗り切ることができません。キムチやカレー粉、わさびや辛子などの香辛料を使うと食欲アップにつながります。
主 菜 (たんぱく質・脂質補給)	焼肉おろしのせ チキンソテー 生姜焼 レバーニラ炒め 鶏唐揚げ 肉野菜炒め ニラ玉炒め うなぎの蒲焼	温泉玉子 焼き鳥 冷奴 納豆 (丼物にすると、ひと皿で主食+主菜になります)	炒めものにする時は、汁物と同じように具たくさんにすることがポイントです。夏は暑さだけでなく、合宿シーズンで練習量が増すと、疲労で食欲も低下しがちです。大根は消化にやさしいので、大根おろしに食欲が増すような梅肉や青じそなどを合わせるとよいでしょう。梅には疲労回復などに効果的なクエン酸も含まれますので試してみてください。生姜焼の生姜も夏バテ予防に効果的です。豚肉やうなぎ、ニラ、長ねぎ、玉ねぎなども夏バテ予防など、疲労対策におすすめの食品です。疲労の蓄積や夏バテを予防するためには、休養だけでなく、水分補給やしっかり食事を摂ることが大切です。
副 菜 (ビタミン・ミネラル補給)	ほうれん草のごま和え ひじき煮 切干大根煮 わかめとタコの酢の物 トマトサラダ ポテトサラダ	サラダ お惣菜	体調を整える働きのあるビタミン・ミネラル類が不足すると、コンディショニングに失敗してしまいます。発汗量が多いと不足しがちなので、サラダなどに、緑黄色野菜をとり入れると色の薄い野菜に比べ、ひと皿でたくさんのビタミン類やミネラル類を摂取することができます。ほうれん草や小松菜、チンゲン菜、ブロッコリー、にんじん、トマトなどがあります。酢の物は、お酢が疲労対策に効果的なだけでなく、サッパリして食欲が低下しがちな季節も食べやすいメニューです。ひじきやワカメ、切り干し大根はミネラル類が豊富です。
フ ル ー ツ (ビタミン・ミネラル補給)	グレープフルーツ オレンジ ぶどう メロン バナナなど 果汁100%ジュース	カットフルーツ 果汁100%ジュース	食べると酸味のあるフルーツは、クエン酸が多く疲労回復などに効果的です。また食欲が低下しがちな時にはバナナなどの食べやすいもので、エネルギー補給をしましょう。何も食べずに練習をしていると、大きく体調を崩してしまいがちです。また、生のフルーツだけでなく、ジュースにしても良いでしょう。時間があれば、数種類のフルーツを組み合わせミキサーにかけ、ミックスジュースを作ってみてください。フルーツだけではなく、野菜や牛乳なども組み合わせ、お気に入りのオリジナルドリンクを作ってみるのも楽しい一品です。
乳 製 品 (カルシウム補給)	牛乳 ヨーグルト チーズなど	牛乳 ヨーグルト チーズなど	牛乳は、ミルクスープなどにも利用できます。ヨーグルトはプレーンタイプだけでなく、そこにブルーベリーやフルーツを加えると、ビタミン・ミネラル類を強化できます。チーズはそのまま食べるだけでなく、食パンにスライスされたものをのせてチーズトースト、ポテトサラダなどのサラダにも混ぜる、和え物、ピザソースを使い、トマトと一緒に肉肉にのせて焼くなど、利用の幅が広いので、調理する際にうまく取り入れると、より多くのカルシウムを補給できます。

スポーツ選手としての食事の基本を身につけるといってご紹介した「食事トレーニング」シリーズ「学報NITTAIDAI」14

基本の6皿 ステップアップ編

このコーナーでは皆さんのすぐ身近にある健康問題やスポーツに関する疑問に焦点をあてて、シリーズで紹介しています。
第3回目の講師は、前回に引き続き、本学スポーツ局の安達瑞保さんです。安達さんは駅伝をはじめ、多くの運動部の栄養管理や食事指導を行い、記録や結果を追い求めるアスリート達をフルサポートしています。そのような最前線の現場サイドの見地から、体力・競技力向上のための栄養・食事の取り方について教えてもらいます。

号 p.9 参照)は実践できていますか? その中の「基本の6皿」で整えよう! について今回は基本が身についた方にとっての「基本の6皿」ステップアップ編をご紹介します。また、時間がない場合や遠征時の昼食などでコンビニエンスストアを利用する時などに何を選んだら良いのか困った場合の参考にしてみてください。(表1)



スポーツ局
医・科学サポートスタッフ
管理栄養士
あだち みずほ
安達 瑞保

実践! 強くなる食生活 スポーツ

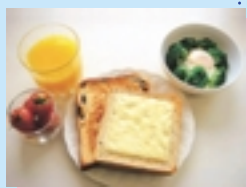
朝ごはんもステップアップ

昼食と夕食は基本の6皿がイメージできているのに、朝食を食べていない人はいませんか? 練習で疲れていると、どうしても朝起きる時間が遅くなる、自炊でなかなか時間がないなど、理由はいろいろあると思います。ただしスポーツ選手は1日2食では必要な栄養素を補給しきれません。朝食は寝ている間に低下した血糖値や体温、血圧などを高めるための、1日のウォーミングアップの食です。毎朝食べる習慣をつけましょう。

いきなり基本の6皿をそろえるのは、調理にも食べるのにも時間がかかるので、まず果汁100%ジュースを毎朝飲む習慣ができた後、次にトーストを加えて、というように少しずつステップアップしていきましょう(写真参照)。

朝ごはんもステップアップ

—包丁いらずの朝ごはん—

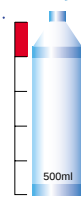


洗っただけで食べられる野菜やフルーツなどを利用すると手軽にできます。冷凍のカット野菜に玉子を落とし、塩・コショウで調味したらラップをかけて電子レンジで温めるだけで、簡単に主菜も用意できます。加熱している間に、ミソマトを洗う、ヨーグルトを用意するなど調理の時間も短縮できます。

シンボルマークで覚えよう 第2弾『水分補給の6ポイント』

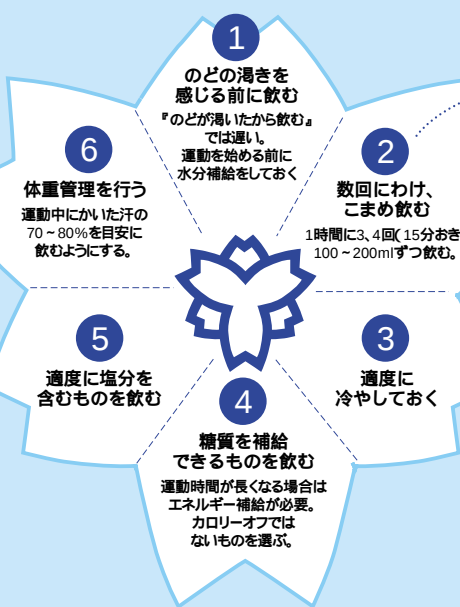
運動中、体温を調節するために、屋外だけではなく、屋内でもたくさん汗をかきます。きちんと水分補給を行うことは、熱中症を防ぐだけではなく、疲労や食欲などにも影響します。技術の精度を上げるためには集中力を保ち、数多くの反復練習を必要とします。この集中力を保つ

1回量の目安
(500mlのペットボトルの場合)
ペットボトルの1/5～多くて1/2



スクイズボトルの時の目安としては、ひと口分含むと、約30～50mlです。3口含むと約100ml程度の給水ができます。

ためにも理想的な水分補給が大切です。陸上競技の長距離種目におけるレースを想定した練習などでは、本番でも水分補給ができない場合を考慮し、試合当日のスタート前にどのような水分補給を行うかにポイントを置き、シミュレーションしてみましょう。



以前は市販のスポーツドリンクは濃いので薄めて、というように利用されていましたが、現在は薄める必要がないものがほとんどです。ただし、甘すぎる、濃いと感ずる場合には薄めて利用しても良いでしょう。発汗量が少なく運動時間が短い場合は、スポーツドリンクではなくて水でも構いません。『のどが渇いた!』と感ずるとすでに脱水が始まっております。パフォーマンスが低下します。のどが渇いていなくても、脱水予防のため、また飲み過ぎを防ぐため、こまめに飲むことがポイントです。

トップページをはじめとする 全面リニューアル

閲覧者に対して大学の伝えたい情報を、より迅速かつ魅力的に発信していきます。また、メニュー表示の簡素化により、競技成績、学生生活、授業や入試に関する情報など、閲覧者が知りたい情報を充実させました。



学生会ブログトップ画面

今後の機能強化計画(Step2)

・サイト内検索

本学ホームページと学生会クラブ・サークルブログ内コンテンツの全文検索機能を搭載し、閲覧者は知りたい情報を検索できるようになります。

・問合せフォーム

閲覧者からの本学へメールで問い合わせる際のフォーム機能を搭載し、その内容により、担当部署へメールが送信されるシステムです。

・RSS配信

新着情報やブログページの更新タイミングなどを閲覧者がRSSリーダー等でチェックでき、日体大の最新情報を得ることができます。

・ティッカー機能

トップページに大学からの重要情報、ニュース速報を目立つ位置にティッカーで表示します。これにより、閲覧者がいち早く情報を得ることができます。



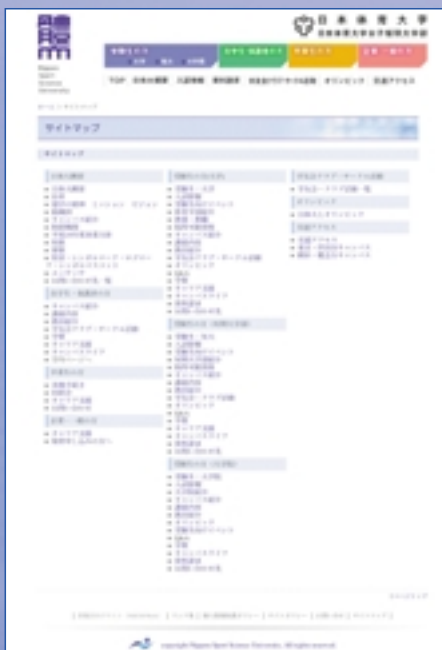
トップページ画面

デザインの一新

「爽やかさ」を柱に、躍動感やスピード感を与える、広がりのある日体大らしいデザインになりました。

閲覧者別メニューの充実

「受験生の方」「在校生・保護者の方」「卒業生の方」「企業の方」と、検索コンテンツを分けることにより、それぞれの視点に立った情報提供ができるようになりました。



サイトマップ画面

サイトマップを掲載

トップページにサイトマップを掲載することにより、閲覧者が探しているページまで素早く到達できるようになりました。

ホームページをリニューアル

今年6月30日に本学ホームページを全面リニューアルしました。

これまでより「見やすい・分かりやすい・楽しい」魅力あるホームページをめざし、利用者の方々に満足していただけるホームページとなるように、大幅な改善を図りました。今後も多くの皆様に閲覧していただけるように、内容の充実を図っていきたくと考えております。



クラブブログ画面

学生会クラブ・サークル活動

本学の特長とも言うべき学生会クラブ・サークル活動の情報提供を充実化するために、ブログシステムを導入しました。これにより、各クラブ・サークルでより簡便に自主的な運営・管理が可能となり、競技成績や活動情報が、以前より迅速に更新・提供出来るようになりました。

URLは<http://www.nittai.ac.jp/>です。



叙勲および褒章受章者

平成19年春の叙勲にて、諸富嘉男名誉教授が瑞宝中綬章を受章されました。また、滝沢康二教授がスポーツ振興の功績により、藍綬褒章を受章されました。おめでとうございます。



カヌー一部学生が人命救助で表彰状

平成19年7月12日(木)多摩川で発生した水難事故において、人命救助を行ったとして、本学学友会カヌー部所属・体育学科3年の岸 和義(きし・かずよし)君が、川崎市消防局中原消防署長から26日に表彰状を授与された。川崎市中原消防署によると、12日9時57分頃、岸君は多摩川でカヌー部員10人との練習中、大田区のカヌー橋付近で水面から女性顔を出しているのを発見。女性をカヌーの舳先につかまらせ曳行し、河川敷に引き上げ、到着した消防隊、救急隊に引き継いだ。このような迅速、的確な人命救助活動の功績に対して、消防署長から表彰状が贈られた。



岸 和義君のコメント

「水面から人の顔だけが見えた瞬間、躊躇することなく反射的にカヌーで救助に向かっていました。日頃から川には慣れ親しんでいるので、一般の人に比べて水に対する恐怖心はありませんでした。練習中だったのでまわりに他のカヌー部員もいましたが、気がついたら救助のための連携体制が自発的に出来ていたのには自分でも驚きました。大学の授業で救助法などを学びましたが、自分の競技の場が河川ということもあり、いつかこのような場面に本当に遭遇するかもしれないという緊張感をもって授業に取り組んでいたことも、今回救助に成功した要因かもしれません。」



日体大とマイクロソフトが提携。 「Windows Live(TM)@edu」を 2007年秋より導入開始。 ～今年度の卒業生からアカウント 配布開始、順次サービス対象を拡大～

日本体育大学、日本体育大学女子短期大学部(以下、「本学」と)とマイクロソフト株式会社(本社:東京都渋谷区、以下「マイクロソフト」)は、7月9日、教育機関向けパートナーICTソリューション「エデュケーション」の1つである教育機関向けウェブサービス「Windows Live@edu」を採用し、2007年秋より導入開始することを発表した。国内では初の導入事例となる。大学側は、メールシステム管理をアウトソーシングすることで負荷が軽減され、重要な個人情報は、学内で管理することができる。また、大学側や卒業生などは、無償でウェブサービスが利用でき、PCだけでなく携帯電話からでも、国内外を問わずコミュニケーションを図ることが可能となる。

本学は全学的にWindows Live@eduを採用して、6万5千人以上の卒業生が無料で大学のドメイン(ネット上の住所)を持つメールアドレスやブログなどの種々のサービスを提供できるようになる。これにより、卒業生に対して本学からの連絡手段の準備が整い、メール機能やお知らせ機能を使い、卒業後も本学の魅力を感じ続けてもらうため、大学の情報を積極的に提供することができる。また、同時に卒業生からのフィードバックも期待されている。まずは、今年度の卒業学年からアカウントを配付し、サービスの提供を行う予定。既存の卒業生には今後、ホームページ等により広報を行い利用申し込みを受け付け、サービスの対象を順次拡大していく。

落合卓四郎副学長(企画管理運営担当)(当時)は「本学が策定した11の大学改革構想を進めるにあたっては、様々なステークホルダーとの関係を向上させることが求められます。Windows Live Hotmailの実績を基盤に高い次元で提供されるWindows Live@eduにより、その実現が可能になります。ウィルス対策、スパム対策などの利用者保護はもちろんのこと、学内に導入するIdentity Lifecycle Manager 2007(ILM2007)により周密なアカウント管理が可能である一方、導入、運用に必要な設備はILM2007のみであるなど、かかるコストはハウジングによる運用などと比較して1/10程度と、利便性の向上とともに高いコストパフォーマンスが得られます。Windows Live@eduの活用は、必ずやステークホルダーとの関係を深めてくれるものと期待しています。」と述べた。

Windows Live@eduは、すでに欧米などで展開しており、現在15カ国200校以上で採用され、約400万人の学生が活用している。



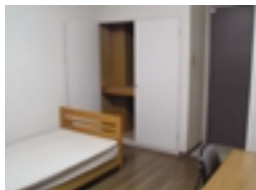
*Windows Live@eduに関する詳細は、<http://get.live.com/edu/home>を参照。



TOPICS 健志台桜寮入寮者募集中!

学生生活課

平成19年4月にオープンした「健志台桜寮」で入寮者を募集しています。



建物概要

健志台桜寮	
構造	鉄筋コンクリート造5階建
延べ床面積	2,599.83㎡(786.44坪)
居室数	80室 (1人部屋40室、 2人部屋40室)
収容人数	120名
居室標準仕様	1室 約14㎡(4.24坪)
共用施設	食堂、ミニキッチン、浴室、 シャワー室、談話コーナ-、 ランドリー室、多目的室、 駐輪場
その他	電子ロック式セキュリティ- (エントランス) 全室インターネット端子 完備 全室個別空調(エアコン) 完備

- 所在地 / 〒227 - 0033
神奈川県横浜市青葉区鴨志田町550 - 1
- 交通 / 東急田園都市線 青葉台駅下車
東急バス「鴨志田団地行き」
(青葉台駅～団地中央 約10分)
団地中央バス停下車 徒歩3分
横浜・健志台キャンパスから徒歩約12分
- 詳細は学生生活課(寮担当)
TEL.045-962-5547までお問い合わせください。



健志台桜寮からのレポート

体育学科1年
福富 汐里

栃木県私立作新学院高校出身

今年の4月にオープンした健志台桜寮に入寮しました。水泳部で飛込競技をやっているのですが、同じ飛込競技の4年生と相部屋で生活しています。競技のアドバイスや授業の選択、大学生活の様々な疑問点なども先輩がいることでスムーズに解消することができました。一人暮らしだと寂しい面もあるかと思いますが、そのような事もなく楽しい時間を過ごしています。寮の玄関はオートロック式でセキュリティ面も万全な上、外観はとても寮とは思えないほど綺麗です。また、寮父さん、寮母さんが常駐していて、アットホームな雰囲気なので、オンとオフの切り替えがうまくできます。そして、食生活のサポートもこの桜寮ならではのようです。私は野菜が苦手だったのですが、徐々に克服しています。

このようなバックアップのもと生活を送れることは、競技に集中することにおいても大きなメリットではないでしょうか。他のクラブの学生たちと交流ができることも、自分の競技力向上に大いに参考になり、かつ刺激を受けます。将来は日本のトップ選手を目指していきたいと思っています。その中でこの桜寮での生活は私の原点になるはずです。

TOPICS 平成19年度
新入生導入教育プログラムが終了

新入生が、新しい学生生活を始めるにあたり、日体大の学生として自覚を持って、学業やスポーツに専念し、将来の目標に向かってスタートが出来るよう、新入生オリエンテーションから7月に実施される海浜実習(大学)、体験学習(短大)までを新入生導入教育プログラムとして位置づけています。また、このプログラムは事業の内容が認められ、文部科学省より大学教育高度化推進特別補助事業に採択されています。

新入生は、このプログラムを通して日体大に入学した実感と百十有余年の伝統の重さ、日体大生の勇気と誇りを胸に抱きます。また、本学学生としての自覚を確かなものとし、仲間や教員との触れ合いを深めることを目的としています。

海浜実習(大学)

千葉県南房総市「岩井海岸」にて、7月1日(日)から7月14日(土)の間、各団3泊4日の4団編成にて、1,419名の学生が参加。学生は、「自然環境の理解」「心身の鍛錬」「集団生活における和」の三点を学ぶため、海での泳ぎ方や、泳法訓練、救助法、AEDの使用法等を学習し、メインプログラムである4kmにも及ぶ大遠泳に挑戦し、日体大生としてのアイデンティティを形成する基礎を培った。



体験学習(短大)

静岡県御殿場市「国立中央青少年交流の家」を拠点として、7月4日(水)から7月7日(土)まで、3泊4日の1団編成の日程で、192名の学生が参加。体育科は富士登山、幼児教育保育科は宝永山の登山を中心としたプログラムを通して、自然の理解、自然保護の必要性を学んだ。また、克服的スポーツによって得られる達成感、充実感を自ら体感することにより、体育・スポーツや幼児教育・保育の指導者を目指す者としての資質向上が図られた。



19年度 上半期クラブの主な大会成績

スポーツ課調べ 2007年4月～2007年7月20日現在
情報は本学ホームページ・学友会成績及び新聞各紙・インターネットからの抜粋

クラブ名	大会名	結果	氏名
■アーチェリー	世界選手権最終選考会 関東学生アーチェリーリーグ戦 全日本学生東日本大会 W杯トルコ大会 世界選手権（五輪予選）	女子リカーブ 2位（世界選手権代表決定） 男子優勝 女子優勝 女子優勝 女子個人 6位 女子団体 14位 女子リカーブ個人3回戦敗退（予選では日本新記録得点で4位） 女子団体リカーブ予選 8位（日本新記録得点） 北京五輪・個人枠代表決定	早川浪 早川浪 早川浪 早川浪 早川浪 早川浪 早川浪
■スケート(アイスホッケー)	関東大学選手権	男子10位	
■柔道	ドイツ・ジュニア国際 全日本学生柔道優勝大会	男子73キロ級 3位 男子準々決勝敗退 女子5人制 3位	平井勝 優秀選手・佐々木大 優秀選手・東陽子
■ウェイトリフティング	全日本選手権	女子58キロ級 3位	守美穂子
■少林寺拳法	関東学生大会	男子三段以上の部 最優秀 男子初段の部 最優秀 男子三人掛けの部 最優秀 女子団体の部 最優秀	平田壮吾、安東雅喬 渋谷雄生、松本勝五 奈良匠、深瀬裕太郎、川島涼輔
■水泳（競泳）	日本選手権	女子50メートル背泳ぎ 4位	田部井恵理
■水泳（水球）	関東学生リーグ戦 日本選手権	男子優勝 男子優勝	全日体大
■水泳（飛び込み）	室内飛び込み競技大会	男子シンクロナイズド高飛び込み 優勝	狩野友昭、水島豊
■スキー	全日本学生アルペンスプリング大会	女子大回転 3位	石水絵梨香
■相撲	全国大学選抜相撲宇佐大会 全国選抜大学・実業団対抗 東日本学生選手権	男子団体戦 優勝 男子個人戦 優勝 男子個人戦 2位 男子団体 準決勝敗退 男子個人 優勝 男子個人 2位 男子団体優勝	中村優太、松永六十四、宮本泰成、伊東良、立野卓 伊東良 宮本泰成 宮本泰成 立野卓
■ソフトテニス	全日本大学選抜七尾大会 全日本学生王座決定戦	男子2位 男子2位	稲積京之介
■体操競技	ウクライナ国際競技会 世界選手権2次選考会 東日本選手権 NHK杯	男子個人総合 3位 男子種目別 跳馬 2位 男子個人総合 5位 男子団体総合 優勝 女子団体総合 優勝 男子個人総合7位（種目別得点で世界選手権代表）	沖口誠 沖口誠 沖口誠 沖口誠
■トライアスロン	アジア選抜大会（U-23）	男子6位（日本人トップ）	若杉摩耶文
■トランポリン	東日本学生選手権 W杯シリーズ・第5戦 世界選手権代表選考会	男子大学対抗戦 2位 女子大学対抗戦 優勝 女子シンクロナイズド 5位 女子個人3位（世界選手権代表決定）	 山下なつみ 寺田望七
■バスケットボール	関東大学選手権 関東女子学生選手権	男子7位 女子4位	
■バドミントン	タイ・オープン	男子シングルス ベスト16	遠藤大由
■バレーボール	関東大学リーグ	男子5位 女子6位	
■ハンドボール	関東学生春季リーグ戦	男子優勝 女子8位	最優秀選手・友利彬彦、得点王・棚原良
■フェンシング	関東学生リーグ戦 全日本学生王座決定戦	男子フルレ2部 優勝 女子エペ1部 優勝 女子サーブル1部 優勝 女子総合成績 優勝 女子サーブル 3位 女子エペ 3位	
■ボート	グリーンレガッタ	男子シングルスカル 2位 男子ダブルスカル 3位 男子舵手つきフォア 3位 男子エイト 3位 女子シングルスカル 3位	
■野球	首都大学野球	男子3位	首位打者・ベストナイン指名打者・井上和哉 ベストナイン二塁手・金田翔太
■軟式野球	春季リーグ戦	男子優勝	
■ライフセービング	全日本室内選手権大会	男女総合2位	
■陸上競技	兵庫リレーカーニバル 関東学生対校選手権 日本学生陸上競技対校選手権 日本選手権 金栗記念選抜中距離大会 関東学生対校選手権	男子800メートル 優勝 男子800メートル 優勝 男子1500メートル 3位 男子走幅跳 2位 女子400メートル 3位 女子4×400メートル 3位 女子800メートル 優勝 女子5000メートル 2位 女子10000メートル 2位 女子棒高跳 3位 男子800メートル 優勝 女子4×100メートル 3位 女子砲丸投げ 3位 女子10000メートル 3位 男子800メートル 3位 男子5000メートル 4位（日本選手最高） 男子10000メートル 3位	口野武史 口野武史 口野武史 齋藤 絢 岸川朱理 岸川朱理、楠美香奈、平山智佳子、吉牟田佳奈 岸川朱理 鈴木 麻里子 鈴木 麻里子 森 希衣 口野武史 須田紗織、松垣文乃、河原崎可央里、松本菜摘 関郁子 鈴木麻里子 口野武史 北村聡 北村聡
■レスリング	JOC杯ジュニアオリンピック アジア選手権 東日本学生リーグ戦 アジア・ジュニア選手権	男子フリースタイル 84キロ級 優勝 男子グレコローマン 55キロ級 優勝 男子グレコローマン 66キロ級 優勝 男子グレコローマン 74キロ級 優勝 男子グレコローマン 60キロ級 5位 男子優勝 男子フリースタイル 55キロ級 優勝	松本篤史 富岡達也 成瀬一彦 井上智裕 松本隆太郎
■インラインホッケー	関東大会	男子3位	
■基礎スキー研究会	全国学生岩岳大会・基礎の部	男子総合2位 女子総合2位 女子団体戦 優勝	
■新体操	世界選手権代表決定競技会	女子個人総合 2位（世界選手権出場決定）	村田由香里
■セバクロー	アラフラゲームス 全日本学生選手権大会	男子日本ダブルス・Aチーム2位 男子2位 女子優勝	内田和仁
■ダブルダッチ	アメリカンダブルダッチリーグ	男女優勝	チーム桜覇





■ 休日の図書館開館について

図書館では、2007年6月から東京・世田谷、横浜・健志台の両キャンパスともに、授業実施期間中の休日(日曜日、祝日)も開館しています。2005年4月からスタートした、平日夜10時までの夜間開館とあわせて、図書館の開館サービスが改善されています。詳しくは、本学図書館ホームページ上の開館予定表またはカウンターで配布しています開館予定表でご確認ください。

〔開館時間〕

月～金 8:45～22:00
土 8:45～19:00
休日 10:15～18:00

TOPICS

2006年12月現在で、本学図書館の複写受付件数は、学部図書館を含む全大学図書館1,500館のうち21位で、単科大学図書館としては驚異的な数字を記録して、「あてにされる図書館」として大きな資料的貢献を果たしています。



同窓会からのお知らせ

日本体育大学同窓会会長 塔尾 武夫

学生諸君には、日本体育大学での学生生活をはじめ、スポーツ・武道等の各種大会において、広範のご活躍のこと、頼もしく嬉しく思います。私が会長に就任して三期目を迎えます。他大学におきまして卒業生だけの同窓会から、学生を準会員とした卒業生と学生がつくる「校友会」が主流になってきています。同窓会としては、今「校友会」への組織の転換期と考え、学生を側面から支援する体制を着々と整えております。これは、どうしても成し遂げなくてはならない仕事だと思っています。

その一部を紹介いたしますと、大学と連携を取りながらの教育実習時における地元同窓の学校管理職OBなどによる教育実習時の巡回指導があります。すでに教育実習を終えている学生は多いかと思えます。本年度は32都道府県で教育実習時の巡回指導は地元学校管理職OBが伺いました。教育実習が後期に予定されている学生は、OBの学校訪問の際、地元の状況などをつぶさに伺える機会になると考えています。これから、団塊の世代の大量退職期に入り、これからしばらくの間、教員採用人数についてはかなりの需要が見込めます。

企業や自治体などに就職する傾向も続くことでしょう。同窓会としても、さらに大学と連携を密にしていきたいと思っています。

同窓会事業として就職対策研修事業を開催しております。教員採用試験対策勉強会、また一般企業に就職されているOB・OGの方々の講演や採用試験対策勉強会等を研修事業として行っております。本年度すでに多くの都道府県にて開催され、参加した学生も多数いると思います。これから開催される都県の日程表を掲載します。本年度の就職対策事業がすでに終了している道府県の学生諸君は同窓会ホームページ(URL: <http://www.nittai-club.com/>)に掲載されている支部事務局にお問い合わせみてください。また就職対策研修事業開催日程についても最新の情報を掲載していますので、就職活動に大いに同窓会を活用していただくことを期待しています。

■ 平成19年度都道府県就職対策研修事業開催日程表

都道府県	開催日	都道府県	開催日
青森	12/29	静岡	'08/1/5
群馬	'08/2/2	愛知	'08/1/5
東京	11/26	佐賀	'08/1/4
神奈川	12/15	鹿児島	'08/2

開催日時等の詳細については、都県事務局までお問い合わせください。



■ 日体大フェア(出張ミニオープンキャンパス)開催!!

受験生
必見!!

日体大があなたの街に行きます。
オープンキャンパスに参加できない方も地元で開催される
ミニオープンキャンパスで『日体大』を感じてください!!!

札幌	8月5日(日)	札幌全日空ホテル	大阪	9月15日(土)	梅田スカイビル
仙台	9月9日(日)	仙台ガーデンプラス	広島	9月29日(土)	アークホテル広島
名古屋	9月22日(土)	名鉄グランドホテル	福岡	9月2日 (日)	クリオコート博多

全日程 13:00～17:00(入退場自由)

個別相談 授業体験 日体生とのフリートーク

過去問題・願書などの配布会 大学・短大紹介ビデオ など

〔問い合わせ先 入試課〕03-5706-0910(8月31日まで) 045-963-7955(9月1日から)

■ 速報 8/25現在 第48回体育研究発表実演会

【東京大会】平成19年11月30日(金)有明コロシアム(17時開場 18時開演)

【香川県大会】平成19年12月13日(木)高松市総合体育館

【岡山県大会】平成19年12月14日(金)岡山県総合グラウンド体育館(桃太郎アリーナ)

【広島県大会】平成19年12月15日(土)広島県立総合体育館(グリーンアリーナ)

【山口県大会】平成19年12月16日(日)山口県維新百年記念公園スポーツ文化センター

●演技種目(順不同) / オープニング / チアリーディング / セパタクロー / 体操 / 少林寺拳法 / 集団行動 / みんな一緒に / 新体操 / 伝統芸能(大田楽) / トランボリン / スポーツを「見る、観る」 / 体操競技 / ダンス / エッサッサ / フィナーレ

入場券の配布については追って、本学ホームページでご案内します。

〔問い合わせ先 学生生活課〕



■ 平成20年度 交換留学生募集

日本体育大学は、北京体育大学(中国)、ドイツスポーツ大学ケルン(ドイツ)及び慶熙大学(韓国)との学術・スポーツ交流協定に基づき、交換留学生を派遣しています。派遣期間は1年間です。学生生活課・健志台教学課で募集要項を配布しています。

1. 応募資格

- 1) 本学に在学する学部、大学院の学生(留学生は除く)
- 2) 北京体育大学、ドイツスポーツ大学ケルンは留学時に学部3年次以上、慶熙大学は学部2年次以上の在学生であること。(大学院生含む)
- 3) 本学教員の推薦のあること
- 4) 単位修得状況が平均以上であること

2. 派遣学生数 北京体育大学、ドイツスポーツ大学ケルン、慶熙大学 各1名

3. 留学条件

- 1) 留学先大学の授業料は免除される(留学期間中は休学の手続きをする)
- 2) 奨学金 北京体育大学は支給あり
ドイツスポーツ大学ケルン、慶熙大学は支給なし
- 3) 往復交通費は本人の負担

4. 受付締切 平成19年10月25日(木)

5. 選考方法 語学能力試験と面接

〔問い合わせ先 学生生活課〕